

蒲田西たすけあいプラットフォームを開催してのまとめ

蒲田西たすけあいプラットフォームは関係機関間のつながりを深め、ネットワークを形成し、地域の解決基盤を高め、予防をしながら重度化を防ぐ取り組みを通じた地域づくりを目的として開催したところである。開催を前後して具体的には次のような効果が発生した。

<蒲田西たすけあいプラットフォームの具体的効果>

①プラットフォーム開催前

●イベントの周知活動をする中で人との関わり、ニーズ把握

- ・ 海外ボランティア等の経験を知り、改めて地域の中で多様な経験を持つ方の存在を知ることができた。
- ・ 地域活動している人の悩みを共有し、次の活動展開をともに考えることができた。

②プラットフォーム開催

●ファシリテーションでの配慮と工夫

- ・ 11月に開催した関係機関によるプレミーティングで外国籍住民のごみ捨て問題については日本人の一方的な価値観や規範の押し付けにならないよう留意する意見が出され、その点を留意しながらファシリテーションができた。

●当事者だけでなく、その家族にまで配慮し、世帯や外国籍住民をどう支えるかまで話しあえた(ミクロレベルからメゾレベルまで連動したソーシャルワーク実践の展開)

- ・ 親に通訳がわりに連れまわされている例も挙げられ、子どもの人権にも配慮していかなければならない気づき生まれた。
- ・ 外国籍住民に自らコミュニケーションをとっていくこと、外国籍住民の居場所づくり、彼らを受け入れていく体制づくりが大事である。

●伴走型支援の果たす役割の再確認

- ・ レガートおおたが展開している当事者に同行し、支援する伴走型支援がいかにセーフティネットになっているか再確認できた。(課題解決型支援と伴走型支援の両方が大事であり、大いに社会福祉分野のソーシャルワーカーは学び、実践する必要がある。)

●参加者同士のつながり①

- ・ 子ども食堂を実施予定の代表者と地域の民生委員が会うことで当該地域での福祉活動の連携の契機となった。

③プラットフォーム開催後

●参加できなかった方との交流

- ・ 参加できなかった民生委員から当日の様子を聞きたいとの要望あり。説明すると同時に今後の地域での居場所づくりに向けて建設的に話し合うことができた。(参加できなかった福祉事業者の方へ今後説明していく機会を設ける予定)

●参加者同士のつながり②

- ・ 地域包括支援センター職員が訪問看護事業者と知り合い、外国籍住民へのサービス提供につながった

今後に向けて

今回の蒲田西たすけあいプラットフォームでは多くの方とのつながりが生まれ、上記の効果が出てきたところである。今後社会福祉分野と多文化共生分野との接点を増やし、いかにこのつながりを大事にし、協働していくかが求められる。蒲田西たすけあいプラットフォームの企画や運営に関わりたいという方とも協働し、当該地域での孤立を防ぎ、支え合う仕組みづくり、地域づくりを行っていくことが重要である。

令和5年度蒲田西たすけあいプラットフォーム次第

テーマ：外国籍住民への関わり・支援

1 開会

2 スケジュール説明

3 令和5年度蒲田西たすけあいプラットフォームの経過等 (p. 2)



蒲田西たすけあいPF

4 大田区における外国籍住民へのサービス等を学ぶ

① 国際都市おおた協会（GOCA）における外国人支援の取組み (p. 3)

一般財団法人国際都市おおた協会 多文化共生係長 細川麻希子 氏

② 大田区における外国籍住民への伴走型支援 (p. 14)

一般社団法人レガートおおた 代表理事 石井さわ子 氏

5 外国籍住民当事者の話を聞く (p. 26)

南理恵 氏、葉玉玲 氏

6 交流

7 グループに分かれての意見交換 (p. 27)

① 外国籍住民との関わり（過去、現在）

② どんな風に外国籍住民について感じているか

③ 今後自分に何ができるか

8 意見の発表とコメント（国際都市おおた協会・レガートおおた等）

9 まとめ

外国籍住民への関わり・支援 (p. 29)

～関係機関や地域住民とのさらなる協働を目指して～

大田区社会福祉協議会 蒲田地区地域福祉コーディネーター 内藤博幸

10 閉会

アンケート記入依頼と記念撮影

①開会 手話で挨拶（こんにちは）



参加者 34名（講師2名含む）
（内訳）

○ 区民・関係団体 26

○ 社協・実習生 8

②大田区における外国籍住民へのサービスを学ぶ



国際都市おおた協会
多文化共生係長 細川 氏



レガートおおた
代表理事 石井 氏



③外国籍住民からのお話・交流



④グループ毎の意見交換・発表



令和5年度 蒲田西たすけあいプラットフォーム 2024.02.27(火) グループ(A・B・C・D・E)に分かれての意見交換 発表内容

- ① 外国籍住民との関わり(過去、現在)
- ② どんな風に外国籍住民について感じているか
- ③ 今後自分に何ができるか

Aグループ

- ①外国籍住民との関わり(過去、現在)
 - 普段の生活の中では、ゴミの出し方について外国籍住民とちょっと違いがある。
 - 出張所や社協に外国籍住民が来所した際、専門用語をうまく伝えることが難しい。
 - 職場に外国籍の職員を受け入れていく時にどうしていったらよいか。職場として受け入れができて、利用する方(日本人)が受け入れてくれない現状がある。
 - 英語を話すスキルがあり、色々な外国人と接したい気持ちはあるが、交流できる場がない。外国人と接する場をつくることで、受け入れていくことができるのではないか。
- ③今後自分に何ができるか
 - ゴミ出しの時など、自分から挨拶をして少しずつコミュニケーションを取り、文化を伝える。
 - 特別出張所や社協等の窓口で「やさしい日本語」を活用する。英語を話せる職員に負担がかかるのではなく、チームとしてうまく伝えられるような体制をつくっていく。
 - 日本の労働人口が減っているので、今後は外国籍の方の労働力、受け入れが非常に大事になる。職場で受け入れるための体制づくりや、作業療養士など資格試験ではどうしても難しい日本語になるので、ふりがなをふって、より多くの人を受験できるような体制をつくるのが大事。

Bグループ

- ① 外国籍住民との関わり(過去、現在)
 - 近所の区営住宅に暮らすミャンマーの方。日本語が片言の子がいる。家族で日本語しか話せなくなったらどうしたらいいのか。➡ レガートおおたに相談を(レガートおおた職員より)
 - 高齢者の相談窓口として、地域包括支援センターは10年になる。当初、外国籍住民の相談はそれほどなかった。今は相談があるが、なんとか日本語でやりとりしている。
補聴器が必要な外国籍の女性への対応で、助成金申請ができるが、本人だけでは医師への説明が難しいため、包括職員が同行し、助成金を活用することができた。
 - 英語が話せるケアマネージャーがいて通訳してくれる。
 - 千葉県での取り組みとして「多文化フリースクールちば」では、学校のお便りを翻訳して冊子にして配布している。

- 大田区には、フィリピン国籍の方がやっているレストランがある。とても大きなレストランで、様々な外国人の方がくる。そこで交流ができるし、レガートおおたで出張相談もやっている。
- フィリピンでは、タガログ語だけではなくビサヤ語など多数の言語がある。中国やネパールもひとつの言語ではなく様々な言語、民族がある。

② どんな風に外国籍住民について感じているか

- 言葉が通じるのならば、接してコミュニケーション取りたいが、やはり言葉は通じないと非常に抵抗を感じる。
- 今はスマートフォンで Google 翻訳など、高機能の翻訳アプリがある。そういった機器を上手に使って、コミュニケーションを取るのもよい。
- 日本で生まれた子どもたちが先に日本語の生活に慣れ、日本語を覚えるが、親が話せない家庭もある。子どもたちが親に病院に一緒について行き、親は通訳として連れまわしている。子どもたちが使われている現状もある。

③ 今後自分に何ができるか

- 様々な通訳機器があるが、やはり最後は人対人。何かあればレガートおおたで支援をしてもらえ。画面を介してではなく、実際に同行をしてもらって通訳をもらうのが一番よい。DV など複雑で困難なケースの場合も、同行がとても大事になる。
- 外国籍、高齢の方。夫が亡くなり、その後の死亡後の手続きをどうしたらよいかとの相談あり。書類がいろいろあり、日本人でも大変。本人は、なかなかわからないということで、これからの問題になる。お墓の問題も文化習慣が違うので問題になるのではないか。

Cグループ

- 日本人が海外で子育てをするという視点で、逆の立場で海外の方が日本で生活するとしたらどうするか想像力を働かせる。
- 様々な情報はあつたし、つながり先もあると思うが、外国籍住民に届いていないのではないかな。
- 自分の専門分野以外を知らないために、つなげられないことがある。
- ひとつの国で言語は複数とのことで、翻訳機能が上手に使えずに悔しい思いをした。支援の中で疲弊してしまう部分があるが、少しのつながりを大事にして、つながり続けること。熱心にやりすぎず、一歩引いてちょっと客観的に見て、小さなつながりを大事にしていく。今日、出会った縁を大事にしてつなげていけたらよい。

Dグループ

- 多国籍の方と一緒に勉強をしたり、活動する機会や居場所が様々なかたちであるとよい。
- 中・高校生のドロップアウト率が高いことについて、これから学校に通学したり、進路を決める若い子たちが、親を含めてコミュニケーションがうまく取れていないことが課題になる。言葉が不自由な親の通訳を子が担う事情があり、自分のやりたいことを見つけていくのは、大変なのではないか。

- そういった子どもを支える仕掛けとして、子ども食堂のように食べ物を通じて関わる場がある
とよいのではないか。また、その場が常設だといつでも来ることができる。そういった場所が区
内にたくさん増えるとよい。
- 町会・自治会が集まる地域力推進会議に、福祉の関係機関や学校の先生に来てもらい、外国
籍の家族が抱えている課題を共有することが必要ではないか。現在、建設している(仮称)蒲田
西地区都区合同庁舎では、そういった機能があるとよい。
- 外国籍住民の相談窓口が京急蒲田だけではなく、蒲田駅西口方面にもあるとよい。地域の
様々な場所にあるとよい。

Eグループ

- 包括西蒲田のエリアでは、今は外国の方の相談は少ないが、今後は増えてくるのではないか。
- フードパントリー実施団体では、5月から新たにこども食堂を立ち上げる。外国籍の方の支援
を行っていく意向あり。
- 主任児童委員の担当ケース3分の2は外国籍の方の相談。児童相談所や警察等と連携して
関わっている。また夜の公園に外国籍の小学生が集まっている。外国籍住民の居場所がとても
少ない。
- まずは、お互いに何をしているのかを知り、つながっていくことが大事なのではないか。

コメント 国際都市おおた協会 多文化共生係長 細川 氏

本日は皆さま 色々な分野から、色々な方がお越しにいただいているということで、それぞれ悩みながら外国籍住民への関わりだったりとか、支援をされてるというお話を聞かせていただきました。私たちがそうなのですが、やはり自分たちだけでしようとしないうこと。そういうことがすごく大事だと思っています。ぜひ皆さまも、今日この場に集まったことをきっかけに、つながり続けて、その縁を大事にして、皆で関わっていくことが大事だと思いました。

区の多言語相談窓口をぜひご利用ください。本日、窓口の案内チラシをお持ちしています。ぜひ持ち帰っていただいて、今後つながっていただけると嬉しいと思います。本日はどうもありがとうございました。

コメント レガートおおた 代表理事 石井 氏

窓口で相談を受けている中だけでは見えてこない課題というのが結構あります。皆さまのお話の中から、やはり課題が見えることは非常に大事なことだと思いました。課題が見えるというのは、やはり解決に向かっていけるということなので、まずその第一歩が踏み出せたのではないかと思います。

外国籍の方で、日本に働きくる方達も多いのですが、帯同してくる家族の存在というのも非常に大きいので、やはり家族を社会全体で、外国籍の方たちを受け入れていく体制をつくることが大事ではないかなと思います。

また、なかなか孤立をしている状況というのも見えてきたので、若い人は結構 SNS 上でつながっているという話もあるのですが、それだけではなく、学校や役所や民生委員さん、レストランや教会などインフォーマルな場も含めて、色々な場面、色々なフェーズで外国籍の方とのつながりをつくっていくことが非常に大事だと思いました。

それから Google 翻訳とか、いろいろツールを使って外国籍の方と窓口でやり取りをしているというお話もあり、それも非常に有効な手段です。また「やさしい日本語」も外国籍の方とつながるコミュニケーションを取る大事な手段なのではないかと思いました。

ヤングケアラーの問題、高齢化、お墓の問題など外国籍の方が 10 年、20 年と日本で暮らしていると新たな問題が生まれてくる。それは日本人も全く同じなので、外国籍の方たちが、やはり日本で暮らして良かったと思えるような体制づくりを、私たちがやっていけたらなと思いました。これだけ色々なつながりがあって、少しのつながりでも大切にしていって、彼らの居場所となるようなところを今後、つくっていけたらいいなと思いました。今日、皆さまとお話しできたこの縁を大事にして、今後も活動していきたいと思います。どうもありがとうございました。

以上

令和5年度 蒲田西たすけあいプラットフォーム 参加者アンケート集計

- テーマ 外国籍住民への支援・関わり
- 日時 令和6年2月27日(火)15時～17時
- 会場 大田区社会福祉センター4階 会議室
- 出席 34名
- 回答 19件(55.9%)

【回答結果】

1. あなたのポジションを教えてください。(複数選択可)

(1)町会自治会・民生委員	3
(2)民間活動団体	3
<u>(3)社会福祉法人</u>	<u>6</u>
(4)企業	1
(5)行政	3
(6)学生	0
(7)その他(商店会、大学教員、体操サークル)	4

2. 一般財団法人 国際都市おおた協会の「国際都市おおた協会における外国人支援の取組み」については理解できましたか？

<u>(1)理解できた</u>	<u>15</u>
(2)ある程度理解できた	4
(3)あまり理解できなかった	0
(4)全く理解できなかった	0

3. 一般社団法人 レガートおおたの「大田区における外国籍住民への伴走型支援」については理解できましたか？

<u>(1)理解できた</u>	<u>16</u>
(2)ある程度理解できた	3
(3)あまり理解できなかった	0
(4)全く理解できなかった	0

4. グループワークの感想について教えてください。

<u>(1)満足</u>	<u>14</u>
(2)やや満足	3
(3)やや不満	2
(4)不満	0

5. 外国人支援の関わり・支援にあたり課題と感じることは何ですか？

- 中学、高校生の外国籍生徒の支援
- 言語的な問題
- 言葉
- 言葉の壁、文化の違いをどう受け入れるか
- 言葉、課題のつなげ先が分からないこと
- ことばの問題からニーズの掘りおこしが不十分
- 実態が地域に伝わっていない。文化や言葉の違いを理解する機会が日本の中で少ない。
- 支援者同士のつながりの機会が少ない。私自身もつなげ先を知らない。後継人不足。
- 時間があまりとれないことです。
- 私個人として外国の方と関わりがないので課題を感じる機会がないのですが、逆にこういうセミナーに多く参加して勉強したり、外国の方と接するきっかけを設けなくてはいけないということを痛感しました。
- つながっている人とつながっていない人がある。
- 窓口での分かりやすい対応
- 高齢化
- 外国の方とつながる。サポートは個人ではしない。複数のメンバー・団体で合同して活動する。外国の方が孤立するのを防ぐ。
- 居場所がたくさんあるとよいなと感じました。
- 外国籍の親をもつ子どもへの関わり。親へのケアラーのようになっている。学校以外の話せる場があるとよいなと思いました。
- 福祉関係者の間で「ニーズ」が共有されていない点 福祉／教育／就労…等の分野で
- 普段の生活であまり接点がない。少し接点があると、支援につながるかも知れない。
- 難民、移民についての考え方

6. 今回の参加を通し、「今後自分にできそうなこと」・「みんなと協力してできそうなこと」やアイデアはどんなことですか？

【自分にできそうなことやアイデア】

- 支援先を知る。つながる。外国の方へあいさつをする。
- 大田区でも何かできることがあればと思っています。
- 社会福祉・ソーシャルワークの大学関係者や研究者へこのテーマの重要性を広めること
- 外国の方と交流を持てたり言語を学べるイベントの参加
- やさしい日本語の習得
- レガートおおたを紹介する。DeepL 翻訳のアプリを活用する。
- よりそうこと
- 子ども食堂にきた外国の子どもとお友達になる。
- まず顔を合わせたら挨拶をする。
- 困りごとがあったらレガートおおたなどに相談させていただく。
- 住まい(中野区ですが)での交流会に参加してみる。
- できる範囲での受け入れ体制づくり
- 支援を必要としている方々が多くいることを周りに伝えて関わってもらえる人につなげる。

【みんなと協力してできそうなことやアイデア】

- 支援者同士が交流する。ケース共有の機会もあるとよいかも。
- 千葉とのつながり(支援者の情報交換など)できたらと思います。
- チャンスがあれば Minto Ota にお連れしたい。
- 組織内で相談窓口の周知
- イベントを行う際に外国籍の方も対象として考えていく。
- 外国籍児の寺子屋。塾レベルではなく学童以上のもの
- 本日のプラットフォームのように、様々な立場の方々と話すことで理解を深めたい。
- 外国人の方と一緒に企画していくことを増やす。
- 蒲田西地区に夜までいて OK の子ども中心の居場所をつくる。

7. 今後、蒲田西たすけあいプラットフォームで話し合いたいテーマは何ですか？

- 理念よりも具体的な方法を話し合いたい。
- 子ども、若者の進学や就労支援について
- 外国籍の方への専門用語の説明の仕方
- 高齢者の地域との関り創出
- 外国人問題を深めてもよいのではないのでしょうか。
- 様々な人が居場所など活用できるように
- お互いさまの地域づくりのために大切なこと、できること
- 公園の利用、学校と地域のつながり、子ども食堂

8. 「蒲田西たすけあいプラットフォーム」の企画や運営について

(1)企画や運営に関わりたい	0
(2)興味はある	12
(3)興味はない	0
(4)わからない	2
(5)未記入	5

9. 8「1. 企画や運営に関わりたい」、「2. 興味はある」と回答された方へお尋ねします。事務局からご連絡してもよろしいでしょうか？

(1)はい	7
(2)いいえ	2
(3)未記入	10

10. 本日の感想やお気づきのことがありましたら自由にご記入ください

- 社協と国際都市おおた協会の連携を望む。
- ありがとうございます。
- 普段、交流に多業種・異業種の方々の話が聞けるよい機会に参加できてよかったです。こういう交流の場をもっと増やしていただければ嬉しいです。
- いろいろな方と話せてよかったです。外国から来た方の話が聞けてよかったです。
- 多様な意見を聞くことができました。ご準備ありがとうございます。

- 大変勉強になりました。
- 今後子ども食堂の食を通じた活動を通して、外国の子どもたちが一時的な居場所になるような活動をしていきたいと思った。
- もう少し外国の方の話を聞いてみたい。
- 皆さまのお話がきけて大変楽しく刺激となりました。ありがとうございます。
- ループワーク とてもよかったです。
- 葉さん、南さんのお話を聞いて本当によかった。講師のお二人の報告も大変勉強になりました。
- 初めての方々とお話できてよかったです。
- レガートおた、GOCA の話が聞いて良かった。これから利用させていただきたい。
- グループワークの時間、ほぼ外国籍の方への関わりが聞けず残念だったが、これから関りたいという意見を聞いてよかったです。

以上